



稲浜通信

~from Inahama Junior High School~

学校だより第3号
千葉市立稲浜中学校
千葉市美浜区稲毛海岸2-3-3
TEL 043-247-8500
令和8年1月発行

13日間の冬休みが明け、令和8年1月6日。新年最初の登校日となりました。登校した生徒たちからは「新しい目標に向かって頑張ろう」という思いが伝わってきました。全校集会は久しぶりに体育館に集まって行われました。

新年の全校集会の校長先生の話

校長

みなさん、新年あけましておめでとうございます。今日からまた、新しい一年の学校生活が始まります。今年、2026年は**丙午（ひのえうま）**の年です。「午（うま）」は、太陽がいちばん高くなるのぼって、力が満ちている時を表すと言われています。そして「丙（ひのえ）」には、物事がしっかりと形になって、ぐんと伸びていくという意味があります。つまり今年、**“勢いよく前に進むことができる年”**といわれています。冬休みの間にみなさんが準備したこと、少しでも努力したこと、あるいは**「よし、今年こそ！」**と決めた気持ちは、きっと前へ進む力になります。

★今年も意識してほしい「3つのあい」のこと

1 「あいさつ」を大切にする

気持ちの良いあいさつは、人とのつながりを広げます。まずは自分から声を出してみましょ。

2 「アイデア」を出すことをためらわない

授業でも、部活でも、行事でも「こうしたらもっと良くなるんじゃないかな」という気づきや考えを、ぜひ仲間や先生に伝えてください。

3 「愛情」をもって行動する

友達への気づかい、後輩へのやさしさ、学校への思いやり。そんな小さな**“愛情”**が、学校全体の雰囲気明るくします。

この「3つのあい（挨拶・アイデア・愛情）」を大切にして、みんなで気持ちよく新しい年をスタートさせましょ。2026年が、みなさんにとって、やってみたいことに一歩踏み出せる年になりますように。今年も一緒に、楽しく・たくましく学校生活をつくっていきましょう。

新年の挨拶:「凡事徹底」が自分を変える

教頭

皆さん、あけましておめでとうございます。短い冬休みでしたが、心と体を休めることはできたでしょうか。

さて、令和8年、新しい一年が始まりました。「今年こそこれを頑張りたい」「新しい自分になりたい」、そう心に決めている人も多いと思います。今日は、その目標を達成するために、そして皆さんが大きく成長するために、ある一冊の本を紹介したいと思います。

それが、この**「凡事徹底」**という本です。皆さんは、熊本県立大津高校という学校を知っていますか？ 普通の公立高校でありながら、サッカー部からは50名以上のJリーガーが誕生し、全国大会でも活躍する強豪校です。なぜ、普通の高校生たちが、そこまで強くなれるのか。このチームを指導する平岡和徳（ひらおか かずのり）先生は、「凡事徹底（ぼんじてってい）」という言葉のスローガンに掲げています。「凡事」とは「平凡なこと、当たり前のこと」。「徹底」とは「突き詰めてやること」。つまり、「誰にでもできる当たり前のことを、誰も真似できないくらい徹底してやり抜く」という意味です。

大津高校の選手たちが徹底しているのは、サッカーの練習だけではありません。「自分から大きな声で挨拶をする」「脱いだ靴をきれいに揃える」「トイレのスリッパを次の人のために整える」。こういった、誰にでもできる小さな習慣を、彼らは日本一のレベルで徹底して行います。この本の中で平岡先生はこうおっしゃっています。「生活という根っこが腐っていたら、サッカーという果実は実らない」「当たり前のことができない人間に、試合という特別な場所で良いプレーはできない」と。これは、サッカーに限ったことではありません。勉強でも、将来の仕事でも同じです。大きな目標を達成する人は、魔法のような特別なことをしているわけではありません。「時間を守る」「約束を守る」「道具を大切にする」。そういった「当たり前の習慣」を疎かにせず、徹底して積み重ねた人が、最後には大きな成果を手にし、自分自身を変えることができるのです。

新年にあたり、皆さんに提案です。今年は、何か一つ、自分なりの**「凡事徹底」**を決めてみませんか？「毎朝校長先生に挨拶する」でも、「授業の始めに道具を準備する」でも、構いません。誰も見ていないところでも、その当たり前のことを続けてみてください。その小さな「習慣」の積み重ねが、皆さんを強くし、やがては皆さんの未来を大きく変えていくはずです。

この一年が、皆さんにとって「当たり前」を大切にし、大きく飛躍する年になることを願っています。

令和7年度 中学生の「税についての作文」 千葉東間税会会長賞 『未来のために』

私は最近、減税を求める声をよく聞くようになった。最初は税金を納めないといけない理由がわからず、世間の声に引っ張られるように私も同じ考え方をするようになった。だが、そんな私の考えを変える事があった。それは、母の一言だった。「減税しても私達があとから大変になるだけなのに。」減税は皆が喜ぶことだと思っていたため、不思議に思った。そもそも税金は何に使われているのか。なぜ減税すると私達が大変になるのか。私は、調べることにした。

皆さんは、税金が何に使われているか聞かれたときに何を想像するだろうか。私は最初、「あまり私達に身近な場所で使われてはいないだろう。」と思っていた。だが、調べた結果。学校や病院、ごみ処理など、とても身近なことに使われており、税金は医療や教育など納めている私達自身や、手助けを必要としている人のために使用されているということがわかった。私は、本が好きで学校の図書室でよく本を借りていた。今回調べたときに無料で本を借りることができるのは、税金があるからだを知り、他人事ではないと自覚することができた。このことから私は、減税を求める人は、税金に自分達も支えられている実感がないのでは、と考えた。例えば、デンマークの税金は二十五パーセントですが国民からの「高い」という声はあまりないと言われている。それは、教育費では幼稚園から大学まで無料。医療では、病院代無料となっているため、国民は税金というものは、自分達にとっていいものだという考え方をする人が多く、不満を持つ人が少ない。このことから、私達も税金に支えられている実感をもつか、もたないかで、考え方が大きく変わる。ということがわかり、私達は皆で支え合っていることを知った。

私は、どのようなことに税金が使われているのか調べたことで、「なぜ減税をすると将来、大変なことになるのか。」という、私の一番の疑問が少しわかった気がした。私なりに税金とはどのようなものなのか考えた。そして私が行き着いたのは、税金は、今を生きる人も、未来を生きる人も、将来の負担が大きくなりすぎず、生活しやすくなることで、新しく生まれてくる子や、様々な人にとってすこしやすくなることで「持続可能な社会」を作るために必要な「世界の貯金」だという考えだ。

最近、減税を求める声を聞くが、今一度考えてみてほしい。安く治療を受けられ、街がきれいに保たれていることは、当たり前ではない。ということを忘れないでほしい。今、この作文を読んでいる人は、読んだあとでも同じ考えができるだろうか。税金について正しい考え方は、人それぞれで答えは、わからない。だから私は今日も、税金の正しい在り方について考えている。

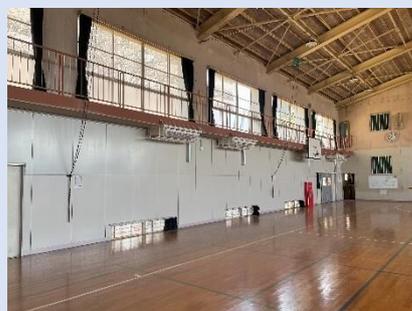
1Cと2Cが全国小中学校リズムダンス ふれあいコンクールに出場しました！

12月26日に行われた「全国小中学校リズムダンスふれあいコンクール」に1年C組と2年C組が出場しました。当日は、オンラインで配信され、全国の中学校のダンスを見ながら結果を待ちました。残念ながら、入賞とはなりませんでしたが、審査員の方からは高評価をいただくことができました。来年はどの学年、学級が出場するのか？次回も入賞をめざして、頑張りましょう！



【当日はドキドキしながら全国のダンスを食い入るように見ていました！】
※全国大会の様子は、コンクールのHPより現在もアーカイブ配信されています。大会をご覧になりたい方は、こちらから視聴することが可能です。

体育館にエアコンが付きました！



昨年の夏から始まったエアコン工事もそろそろ終わりを迎えます。3月から使用が可能となり、卒業式では8台のエアコンが稼働している予定です。エアコンが設置されたことにより、熱中症対策だけでなく、学習環境も改善されました。